

日本フンボルト協会 2016 年度第 1 回常務理事会議事録

日時: 8 月 21 日 (日) 14 時 5 分開始 16 時 10 分終了

場所: ドイツ学術交流会事務所内

出席者 (敬称略): 廣渡清吾、縣 公一郎、西川伸一、浅田和茂、伊藤 眞、岡林 洋、梶 英輔 (兼関東甲信越支部長)、金武直幸、高橋宗五、高山佳奈子、鏝田武志、伏木信次、山田貞三 (兼北海道支部長)、事務局: 関映子

報告事項

1. 総会の報告

事務局から以下の報告があった。

a. 会計報告 (別紙参照)

懇親会については出費をおさえて 3,750 円の赤字で済んだ。赤字は通常会計の予備費より補填する。総会開催に関しては予算が 100,000 円で実際の出費は 102,096 円であった。

b. フンボルト財団の支援金について

- ・ 総会に対しては例年通り、Humboldtianer ひとり 25 ユーロの懇親会費の援助が出た。
- ・ 留学説明会には、今回はじめて、援助が出ることになった。これは特別の折衝の結果である。留学説明会に支援金が出たことは、前例ができたこととして、大きな成果である。支援金は Party 経費の全額にみあう額が支給された。
- ・ 支援金申請のため、報告書と参加者リスト提出の必要があり作成した。財団本部は若手や女性がどれだけ参加しているかに関心があるので、それがわかるリストを作成して提出した。

C. 反省点

本部事務局と実際に運営した中部支部との仕事の分担が当初明確ではなく、時間の経過とともに役割分担ができてうまく行ったが、今後、本部と総会を開催する支部との役割分担を明確にすべきである。

2. 留学説明会の報告

担当の鏝田常務理事から以下の報告があった (別紙「ドイツ研究留学説明会プログラム」とアンケート分析資料を参照)。

a. 全体説明会 (約 1 時間 15 分)

廣渡理事長挨拶、井田 良学術参与によるフンボルト奨学金の説明、DAAD の玉井佐知さんによる DAAD 奨学金の説明、日本フンボルト協会留学支援サイトについての鏝田武志理事の説明が行われた。説明の後に、安倍ひろみさん (DAAD 元奨学生) と Humboldtianer の高橋武司さんに体験談をお話いただいた。特に高橋さんはドイツへ留学する前にアメリカにも留学しており独米の大学や研究環境の比較がとても有益であった。

b. 分科会 (約 1.5 時間)

人文科学系、社会科学系、理工系、生命科学系、医学系、DAAD の 6 つの分科会に別れて、体験談と質疑応答が行われた。それぞれ司会者がおり、最近留学した 1~2 名の若手の

Humboldtianer から奨学金、留学についての具体的な話を聞く機会を提供した。

c. レセプション

ホールで行った。当初は事前申込した人のみ参加できるとしたが、最終的には、人数に余裕があったので全員参加してもらった。

d. アンケート

説明会終了後、すぐにアンケートを行い、提出してもらった。説明会参加者 99 名のうち 66 名から回答を得ることができた。

(アンケートの分析)

- ・どのように情報を得たかという質問に対して「友人や指導教員などから個人的に」という回答が最も多く (27/66)、次いで多い回答は「学内や研究所内のポスターやメール」(18/66) で、「日本フンボルト協会のホームページ」という回答は 8/66 と極めて少なかった。
- ・参加者の大学を見ると偏りがあるので、大学毎に学内で情報が行き渡るように努める必要がある。
- ・場所がなくて、三つの分科会をホールに集めた。声が聞き取りにくいと、不評であった。
- ・DAAD の分科会は予想しないほど参加人数が多く、分科会での情報交換が十分でなかったという意見があった。

その後の意見交換において、今後については開催情報を大学連絡担当者等を活用してさらに周知を図ること、分科会の設定について配慮することなどが指摘された。

3. 会費の納入状況

事務局から以下の報告があった。

- ・年会費については 1611 人中 493 人が納入済みであり少ない。昨年度と同様に 800 名を目標に 9 月に会報を発送する際に会費納入を依頼する。
- ・今回承認された賛助会員にも一般会員と同額の会費納入をお願いする。

4. DAAD 東京事務所長との協議

広渡理事長から DAAD の Toyka 所長との協議について以下の報告があった。

・Toyka 所長から、DAAD では research ambassador という制度を新たに設けることを考えている (前任地であるオーストラリアや韓国では成功した) ので、これについてフンボルト協会となんらかの協力ができないかという相談があった。そこで DAAD 友の会とフンボルト協会が共同して推薦し、DAAD 本部とフンボルト財団が共同で任命するというポストにする、とくに地域支部単位でそのようなポストを設けるという案をまとめ、Toyka 所長が DAAD 本部とフンボルト財団の意向を聞くことになった。結果は、フンボルト財団はいまのところ消極的であり、DAAD だけでこの制度を実施することになった。フンボルト協会としては、DAAD の実施状況をみながら、今後の対応を考えていくことにしたい。

協議事項

1. 来年度の総会について

- ・来年度の総会は東京で開催の予定であるが、ドイツ文化会館でのホール使用が困難になっている事情があるので、早めに手配することにし、また、東京大学駒場キャンパスや早稲田大学での開催も検討する。

- ・総会開催候補日は6月10日(土)か7月1日(土)とする。
- ・総会時には留学説明会も同時に開催することとするので、とくに分科会の部屋の確保を考慮することとする。

2. 来年度の留学説明会について

- ・総会とあわせて行うことを原則とする。

3. ホームページの運営について

鏑田常務理事からコンテンツの充実がなによりもの課題であることが指摘され、次のようなアイデアがだされ、今後の検討課題とした。

- ・ドイツ人研究者にその大学や研究所や学会の宣伝をしてもらう。どんな人材を求めているかを書いてもらう。
- ・ドイツの研究紹介を行う。Humboldtianer を通じてドイツの学会関係者に書いてもらいその研究分野の宣伝をしてもらう。
- ・Humboldtianer に自分の活動報告を書いてもらう。

4. 会報の発行について

- ・年会費納入のお願いをするためにも会報を9月に発行する。掲載内容はこれまでと同様に総会の内容の報告とする。来年の総会予告も常務理事会の決定にしたがって行う。

5. 賛助会員制度の活用について

- ・今回の賛助会員獲得の手順と同様に、毎年新しい Preisträger に賛助会員への勧誘を行うこととする。問い合わせに返事がなかった方々には、再度勧誘のお願いをすることとする。

6. 支部報告

(1) 関東甲信越支部 (別紙資料参照)

梶常務理事から以下の報告があった。

- ・東日本フンボルト協会時代の古い連絡体制をあらためて大学別連絡責任者の体制を構築する
- ・2016年11月26日に支部講演会を開催する。講演者は塚田 稔会員(玉川大学名誉教授)にお願いした。題目は『「脳と創造」— 一時空間を操作できる神経回路網の情報統合機能—』。講演後には塚田先生を交えて会員同士の懇談の場を設ける。

また、2017年3月11日には第4回関東甲信越支部総会の開催を予定している。

- ・運営助成金20万円の交付申請をすでに行った。

(2) 北海道支部 (別紙資料参照)

山田常務理事から以下の報告があった。

- ・初めての支部総会を2015年11月27日に開催し、支部会則を決議し、居城邦治、田口正樹、寺田龍男の3名を北海道支部の幹事に選出した。
- ・来年度中にフンボルトとDAADの合同の留学生説明会を開催する予定である。
- ・北海道支部には約50名のHumboldtianerがいるが、案内に対して返事を下さる方は25名程度。今回、2016年7月16日に開催した支部総会の参加者は7名で、そのうち4名は理事であった。支部総会の後、DAADと共催でアルムニ会を開催した。
- ・10万円の運営援助金の交付申請を行った。

(3) 中部支部 (別紙資料参照、金武理事より説明)

金武常務理事から以下の報告があった。

- ・今年度は総会が名古屋で開催されたためその打ち合わせのために幹事会を幾度か開催した。

- ・秋に総会、懇話会、懇親会の開催を予定している。
- ・10万円の運営援助金の交付申請を行った。

(4) 関西支部

西川常務理事から以下の報告があった。

- ・「美学とテロリズム」という題で10月2日に支部講演を開催する。
- ・運営助成金の交付申請を行った。

(5) 東北支部、中四国支部、九州支部

事務局からそれぞれの支部活動の状況について簡単な報告があった。

とくに九州支部については、フンボルトの総会を福岡で今年6月1日に開催し、その後DAADとの共催でアルムニ会を開催、アルムニ会全体参加者が50数名であった。

7. その他

以下の3件について事務局から報告があった。

① DAAD アジア会議について。

2017年3月23日から25日まで立命館大学で法学のアジア会議が開催予定される。出口雅久会員が代表者で高山佳奈子常務理事も協力している。Humboldtianerにも案内し、参加してもらいたいということで日本フンボルト協会にも協力の依頼が来ている。

② 小平桂一先生 (DAAD 元奨学生、JSPS Bonn 所長) からのお願い (別紙参照)

「外国人研究者招聘事業のご案内」が届いている。日本からドイツ人研究者の招聘数が少なく、これまでは特別枠を設けてきたが、応募数が少ないので廃止が検討されている。積極的にドイツ人研究者の招聘プログラムを利用してほしいとの依頼あり。会報に同封、または掲載する。

③ DAAD 東京事務所長 Frau Toyka が9月30日で任期終了となり、後任として Frau Mahnke が来年赴任する。

次回常務理事会は12月10日(土)に京都の同志社大学で開催